

活動レポート

北海道・美深試験場の「高度運転支援技術テストコース」完成 ～2017年11月より本格的な運用を開始～

当社は、スバル研究実験センター美深試験場（北海道中川郡美深町）に、高度運転支援技術のためのテストコースを新設しました。今後の運転支援技術の高度化に向けて、2017年11月より運用を開始しました。

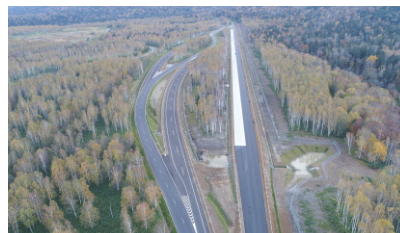
美深試験場は、寒冷地における性能評価や雪上試験などを目的とした開発拠点として、1995年に開設しました。総敷地面積361ヘクタールの中に、各種試験路やハンドリング路のほか、2003年には高速周回路を増設し、実際の公道に見立てたテストコースとして、通年に渡り様々な試験を実施しています。

今回新設した美深試験場の「高度運転支援技術テストコース」は、既設のコースをベースに、より実際の道路に近づけるように見直して建設しました。概要は以下の通りです。

- ・高速周回路 全長4.2km（既存の高速周回路を実際の道路に近づけるよう改修）
都市間高速道路本線にある「緩やかなカーブ」の新設
都市間高速道路のインターチェンジやサービスエリアを想定した「分合流路」の新設
4車線の道路を想定した「多車線路」の新設
北米のフリーウェイを模した「コンクリート舗装路」の新設

- ・市街地路
片側1車線・対面通行を想定した市街地路を新設
交差点での右折レーンの有無や導流帯など、現実に即した形状の道路を再現
欧州を中心に普及している「ラウンドアバウト（円形交差点）」を再現

- ・その他の試験設備
「総合試験路」の拡張と機能追加、ならびに場内道路を拡張
併せて、作業や執務を行う「業務棟」を建て直しました



高速道路の緩やかなカーブ



市街地路

当社は、中期経営ビジョンで掲げる「SUBARUブランドを磨く」取り組みの一環として、総合安全NO.1ブランドを目指し技術開発を進めています。なかでも、運転支援システム「アイサイト」の進化に注力しており、今年8月には新機能「ツーリングアシスト」を全車標準装備したレヴォーグ、WRX S4を日本国内で発売しました。

今回新設したテストコースを活用して、高度化していく運転支援技術に必要な技術開発をさらに加速させます。2020年には「アイサイト」（ステレオカメラ）にデジタルマップ、GPS、レーダーなどミニマムなデバイスを追加することで、自動車線変更機能などを実現します^{※1}。また、交差点での自動車、自転車、歩行者との衝突事故を防止する技術の実現も目指します^{※2}。

当社は、これからも個性豊かな魅力ある確かなクルマづくりを貫き、お客様に「安心と愉しさ」を提供していきます。

※1 2015年5月8日、2016年3月7日 公表済

※2 2016年3月7日 公表済

2018年型 SUBARU XV、WRXが米国IIHSの2017年安全評価で 最高評価「トップセイフティピック(TSP)+」を獲得 ～アイサイトを装着したSUBARU全車がTSP+を獲得～

02

この度、北米地区で現在販売している2018年型SUBARU XV※1とWRXが、IIHS※2(道路安全保険協会)が行う最新の2017年の安全性評価において、最高評価の「トップセイフティピック(TSP)+」を獲得しました。2018年型レガシィ、アウトバック、フォレスター、インプレッサに続く今回の受賞により、アイサイトを装備したSUBARU全車がTSP+を獲得したことになります。

TSPを受賞するには前・側・後面・スモールオーバーラップ衝突、ロールオーバー(車両転覆)耐衝撃性能試験すべてにおいて最良の乗客保護性能を持ち合わせた車として最高の「Good」を獲得するとともに、前面衝突予防評価において「Superior」または「Advanced」を獲得することが要求されます。さらにTSP+を受賞するには、ヘッドライト性能評価における「Good」、「Acceptable」のいずれかの獲得が必要になります。

全面改良モデルとなる2018年型SUBARU XVはすべての耐衝突・衝撃性能試験において最高評価「Good」を獲得するとともに、アイサイトの装備により、衝突予防性能試験において、時速12マイル・時速25マイルいずれの速度域においても衝突を未然に回避し、最高評価「Superior」を獲得しました。

2018年型WRXはハイビームアシスト機能付LEDヘッドライト装備車がヘッドライト性能試験において最高評価「Good」を獲得しました。

当社は、ブランドステートメントである“Confidence in Motion”を通じて、SUBARUならではの「安心と愉しさ」の提案を掲げています。この「安心と愉しさ」を支える重要な要素である「安全」を、ALL-AROUND SAFETYの考え方の基に、0次安全、アクティブセイフティ、プリクラッシュセイフティ、パッシブセイフティの各技術進化により実現していきます。



2018年型 SUBARU XV (米国仕様)



2018年型 WRX (米国仕様)

※1 北米市場名クロスレック

※2 Insurance Institute for Highway Safety
(米国保険業界の非営利団体)